

ウスバキトンボ

Pantala flavescens

トンボ科

名前の由来

「薄翅黄トンボ」の意で、薄い翅の黄色いトンボの意。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」が変化したものという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：薄翅黄蜻蛉



ウスバキトンボ。右下は幼虫（ヤゴ）

形態的特徴

体長40-44mm。翅は無色透明で全身が黄色っぽい。

類似種：なし。

生息環境・分布

平地から低山地の池沼や人工の池や水溜りでも生息できる。
分布：温帯から熱帯にかけて広く分布。国内全域に分布。北海道内でも全域に分布。

十勝地方では、平地から低山地の池沼に生息しているが、東南アジア方面から飛来し、各地の池沼で産卵、羽化しては北上するため、出現数の変動が激しい。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカやハエなどの昆虫類やクモ類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒキアブなどの肉食性昆虫やクモ類、大型トンボ類、鳥類などに捕食される。

繁殖生態・寿命

熱帯から北上してきた個体が6月から7月に北海道に飛来し、水域で産卵する。卵は5日以内で孵化し、約1ヶ月で羽化するが、10月中旬頃には低温のために死滅する。産卵

は打水産卵であり、連結したりメス単独であったりする。寿命：幼虫期間約4週間、成虫期間1～2ヶ月。

興味深い話

■世界で最も分布の広いトンボといわれ、熱帯から北上し、次々と日本全国で産卵する。成長が早いため約1ヶ月で羽化し、気温の高い地方では羽化した個体が産卵、そして羽化を繰り返すが、低温に弱く10月中旬頃には死に絶える。

■羽化までの日数が短いために、公園の噴水のある池など人工の池や一時的にできた水溜りでも羽化できる。
■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するとき水草に登って羽化する。池や沼

の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

生活サイクル

| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 卵期・幼虫期 | | | | | | | | | | | | |
| 成虫期 | | | | | | | | | | | | |

参考文献

- 「蝦夷の蜻蛉」広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993
「北海道のトンボ」二橋愛次郎 エコネットワーク 2002
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988
「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」枝重夫 講談社 1982
「日本産トンボ大図鑑」浜田康・井上清 講談社 1985
「トンボのすべて」井上清・谷幸三 トンボ出版 1999
「カラー日本のトンボ」石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973
「名前といわれ」昆虫図鑑 栗林慧・大谷剛 偕成社 1987
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」更科源蔵・更科光、法政大学出版社 1977

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類